



片側2車線・国道16号線沿いに建つ

東京都の北西に広がる西多摩郡は、3町1村で構成される。人口が最も多いのは瑞穂町（推計3.1万人）で、新宿からは電車を乗り継いで70分前後。武蔵村山市、青梅市、羽村市、埼玉県入間市などと接している。瑞穂町に建つホールは、同店を含めて3軒（P・WORLD調べ）。うち2軒は1000台超で、3キロ圏内にはマルハンのパチスロ専門店「青梅新町店」（青梅市、686台）が看板を掲げる。

パチスロ専門店に変わった理由について、設備や景品関連を担当する中村瞳さんは次のように話す。

「当店は20数年前にもスロ専だった過去があります。今回のリニューアルは、当時のにぎわいを再現するため。」

それを目指す諸条件が揃ったのだと、私は理解しています」と話す。

当時比べて現在は、SNSでメッセージを届けやすくなった。情報収集に熱心なパチスロファンは、そこから納得できる理由・店舗を見つけ出す。同店では店舗LINEのほか、店長、マネージャー、キャラクターがXアカウントを運用する。

「リニューアルで商圏や客層が広がったように思います。新規会員様の住所欄には、江戸川区や埼玉県川越市などちらほら。日常的には、お一人で来られる女性のお客様が増えています」

周辺設備はマースエンジニアリング。エヴォールPOSシステム『EVO8800』や、カード残高の精算と賞品交換をその場で完結できるエヴォールスマートセルフ交換機『EVO50』、液晶画面が180度転回するエヴォールスマートユニットなど、最新モデルにアップグレードした。

一部の賞品は、自動販売機に接続したカードリーダー『EVO3100』でセルフ交換が可能。会員カードまたは一般カードを挿入すると、持ち玉や貯玉、来店ポイントで交換できる。

「購入した自販機に自分たちで賞品をセットしています。補充の手間は生じますが、販売個数の増加や在

HALL REPORT

スーパースロットサンフラワー+（東京都西多摩郡）

にぎわいが生まれるスロ専に 地域共生を謳う老舗グループが大改装

都内でホール2店舗を展開するアクティベート（東京都西多摩郡）が4月24日、PS併設店だった旧『サンフラワー瑞穂店』（同）をパチスロ専門店『スーパースロットサンフラワー+』（プラス）にリニューアルした。総台数は543台。複数の主力機種が“最大級”だ。



A／一度覚えれば手慣れるセルフカウンター B／カードでセルフ交換できる自販機。現金は不可 C／「L東京喰種」の導入数は日本最大級の30台 D／有人カウンターにはエヴォールPOSシステム『EVO8800』 E／遊技途中でも欲しいタイミングで交換できる



中村さん

庫管理の精度向上といった点でメリットがあります」

自販機に並ぶ賞品は、食品、缶飲料、耳栓など。スパイラル状の金具が回転することで賞品が手前に押し出され、取り出し口に落下する。

「グループ会社から和菓子や菓子パンを仕入れています。例えばラスクだと、対人カウンターでは月に20〜30個の販売量でしたが、自販機では80〜90個。ラインナップを考えるのが楽しくなってきました。それに自販機ではヒューマンエラーが起きず、在庫管理の誤差が出ません」

同社の礎である榎屋商會は、米穀の精米を祖業として明治40（1907）年に創業した。時代とともに事業領域を広げ、現在のグループ企業数は13社に。食品関連、レジャー・カルチャー、自動車・エネルギー、不動産関連など、多摩地域の“総合生活産業”を謳う榎屋グループへと成長した。受け継がれた伝統が築く将来ほど、頼もしいものはない。



島端をカーブさせたマイジャグコーナー